

# 道徳学習指導案

対象 第2学年

1 主題名 法やきまりを遵守する 4- (1)

2 資料名 「闇の中の炎」(文部科学省 中学校道徳読み物資料集)

## 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人間は、社会や集団との関わりなくして生きていけない。社会や集団で円滑に生活するためには法やきまりがあり、それを互いが守ることで成り立っている。生活や権利を守るために法やきまりがあり、これは人間の知恵が生み出したものであることや、社会生活の秩序と規律を維持するためには、一人一人が他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、自らに課せられた義務を確実に果たそうとする態度を育成することが重要である。権利ばかりを主張して、義務を遂行しなければ社会は維持できない。また、法やきまりによって個人の自由が保障されるということを理解することも大切である。

(2) 生徒の実態について

中学2年生の時期は、きまりを守ることに反発してみたい、きまりを守ることは格好悪いと考えて、きまりを守れない生徒がいる。逆にきまりを守ることは当然だと考え、守れない自分や仲間を許せないと考える生徒もいる。また、自分の権利は強く主張するものの、自分の果たさなければならない義務をなおざりにする生徒もなかにはいる。世の中の仕組みもある程度理解できるようになり、社会の中での人間としての生き方についての自覚も深まってくる時期なので、法やきまりについてその意義を理解させ、それを遵守することの大切さについて自覚を促していきたい。

(3) 資料について

コンクールに出す作品の下絵提出を控えた主人公はアイデアが浮かばず苦しんでいた。そんなとき、父に買ってもらった画集の版面にヒントを得て作品を構想してしまう。しかし、作品が仕上がっていくにつれ、真似た気がして悩む気持ちが大きくなっていく。父にそれとなく相談した際に父が発した言葉から、自分がこの作品を完成させることはできないと思なおし、主人公は新たにスケッチブックに鉛筆を走らせる。中学生を主人公とした身近な内容で、人間がもつ弱さや揺れ動く主人公の心情がよく表れており、深く考えることができる資料である。

## 4 本時の学習

(1) ねらい

法やきまりの意義を理解し、遵守しようとする態度と判断力を養う。

(2) 指導過程

	学習活動と○主な発問	・予想される生徒の反応	●教師の働きかけ ○指導上の留意点
導入	<p>1 自分の生活の中から考える。</p> <p>①「自分たちで何かきまりやルールを作ったことはあるか。」</p> <p>②「何のために、きまりやルールを作ったのか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間に遊ぶときに、友人とルールを決めた。</li> <li>・林間学校のためのきまりを実行委員会で作った。</li> <li>・ルールがないと遊びが成立しないから。</li> <li>・きまりがないと、なんでもありになってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教師の働きかけ ○指導上の留意点</li> <li>●挙手、指名により発表させる。(T1)</li> <li>○学校生活や友人との関わりなど身近なところから考えさせる。</li> <li>○自分たちで作るためには目的があるはずで、そこに着目させたい。</li> </ul>
展開	<p>2 資料「闇の中の炎」を読み、次のことについて考え、語り合う。</p> <p>発問①「コンクールの締め切りが迫っているのに、筆を持つ主人公の手が止まりがちになっていたのはどうしてだろうか。」</p> <p>発問②(中心発問)「主人公は帰ってから父親に『有名な画家の作品を真似して描くのは悪いことじゃないよね』と相談をする。このときの、主人公はどんな気持ちだったか。また、この主人公の行動についてどう考えるか。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;小集団による語り合いと書く活動&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ワークシートに自分の考えを記入する。</li> <li>2. 小集団による語り合いを行う。</li> <li>3. 語り合いの後、再び自分の考えをワークシートに記入する。</li> </ol> <p>&lt;学級全体で考えを共有する&gt;</p> <p>数人が自分の考えを発表し、学級全体で語り合う。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちがもやもやしていて絵に集中できない。</li> <li>・人の絵を真似しているみたいで描く気が湧かない。</li> <li>・これで本当にいいのか不安だから。</li> <li>・イメージがわからない。</li> <li>・そんなことは大丈夫だよと言ってほしい。</li> <li>・迷いを打ち消したい。</li> <li>・味方をしてほしい。</li> <li>・周りの期待や入賞を目指そうとしていた主人公の状況を考えると分かる気がする。</li> <li>・主人公の気持ちはわかるが、やってはいけないことではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資料名を黒板に貼る(T2)</li> <li>●資料を朗読する。(T1)</li> <li>●主人公をとりまく背景について、まとめる。(T1)</li> <li>●発問カードを黒板に貼る(T2)</li> <li>●挙手、指名により発表させる。(T1)</li> <li>●生徒の意見を板書する(T2)</li> <li>○主人公の揺れ動きだした気持ちを感じ取らせる。</li> <li>【補助質問】「筆をもつ手が止まりがちになっていたときの気持ちはどうだろうか。」</li> <li>●発問カードを黒板に貼る(T2)</li> <li>●小集団の語り合いに加わり、語り合いの内容を深める。(T1・T2)</li> <li>○自分自身が納得できず、いけないことだということも主人公もわかりかけているが、人間の弱さや心情を考えさせる。</li> <li>【補助発問】「友達のことだと言いながらも相談している主人公の心情はどうだろうか。」</li> </ul>

	発問③「締め切りに間に合わなくても、主人公は新しいスケッチブックに夢中で鉛筆を走らせていった。そのときの主人公はどんな気持ちだったのだろうか。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな気持ちで描いていこう。</li> <li>・正々堂々と描ける。</li> <li>・迷いがあったり、自分で自分がダメだと思ったらダメなんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●挙手、指名により発表させる。(T1)</li> <li>●生徒の意見を板書する。(T2)</li> <li>○主人公の迷いが払拭され、正しい行いをしたときの充実感や、きまりやルールを守ることで、社会生活や集団が円滑に営まれていることを感じ取らせる。</li> </ul>
終末	3 教師の説話を聞き、きまりやルールのもつ意味とそれを遵守することについて考える。  4 今日の授業で感じたこと、考えたことを書き、発表する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○人々が共生する社会や集団にはきまりやルールがあり、遵守することで生活をしていることが大切だという心を育てる。</li> <li>●数名の生徒を指名し、発表させる。(T1)</li> <li>●ワークシートを回収する。(T1)</li> </ul>

(3) 評価の観点

- ・法やきまりの意義について理解することができたか。
- ・法やきまりを遵守しようとする態度を養うことができたか。

5 板書計画

